

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	熊田 陽子 【ジェンダー学際研究専攻 平成19年度生】	要 旨
論文題目	「おんなのこ」として性風俗世界に生きるある東京の無店舗型 SM クラブを通して見た都市的“性”様式に関する研究	<p>本論文は、人間の性をめぐる実践の視座から現代都市社会における「生」の在り方の構築過程の特質を解明することを基底的な目的に据える。具体的には、東京の性風俗店（公安委員会届出済みの無店舗型 SM クラブ）での5年間に亘る文化人類学的な民族誌調査で得たデータの実証的分析に基づいて、構造的再生産としての性＝生殖を規範とする都市的生活様式が齎す枷に抗し、性を基点としつつも構造的再生産＝生殖とは分離・訣別したところに生成され得る「都市的なる」人間の関係性構築の論理を分析することで、この目的を遂行するものである。併せて、本論では、生殖に囚われない性の在り方を基点に構築される「都市的なる」人間の関係性の論理と諸実践を都市的“性”様式と呼んで、独自に概念化する。</p> <p>第1章では都市社会学・都市人類学における都市的生活様式と都市の構造化を対象とする先行研究を批判的に精査しつつ、従来周縁化されてきた性及び性風俗世界という境界領域を中核に据えて都市社会を見ることの重要性を指摘し、第2章では旧来の性労働研究に顕著な「犠牲者か労働者か」の二元論的呪縛を行為遂行性に着目した民族誌的研究によって凌駕する必要性を説く。第3章では、その存在が公的に否定されつつも風営法において適法性が担保されて成立する日本の性風俗世界の両義的特質について法制の観点から分析する。第4章で共在者の視点から本論の調査という実践そのものを定位する。前章までの考察を受けて、第5・6章では調査対象である性風俗店の「日常」とそこで働く「おんなのこ」たちが客そして「おんなのこ」同士の間に関係性を構築する過程の分析を通じて、構造的再生産＝生殖とは分離・訣別した「都市的なる」関係構築の特質とその構築の過程と表裏一体を成す「おんなのこ」の「自己」の形成過程の特質（切断と接合の実践）を仮説として提示する。第7・8・9章では、4人の「おんなのこ」の詳細な事例検討によって、性をめぐる切断と接合の実践による「自己」提示を通じて「生」が紡がれていく過程を記述・分析し、第6章の仮説を検証する。終章では、「おんなのこ」たちに見られる「自己」形成及び関係性構築の論理と実践は、周縁的で特異な事例として幽閉されるべきものではなく、都市的生活様式という主流の構造的規制を揺るがし、これに抗する源泉となる都市的“性”様式の実践と称されるべきものであり、「都市的なる」関係性の論理を示す範型の一つとして今後の都市社会研究に対しても汎用性を有するものであることを主張する。</p>
審査委員	(主査) 教授 棚 橋 訓	
	教授 足 立 眞理子	
	教授 館 かのる	
	教授 藤 崎 宏 子	
	首都大学東京 教授 小 田 亮	